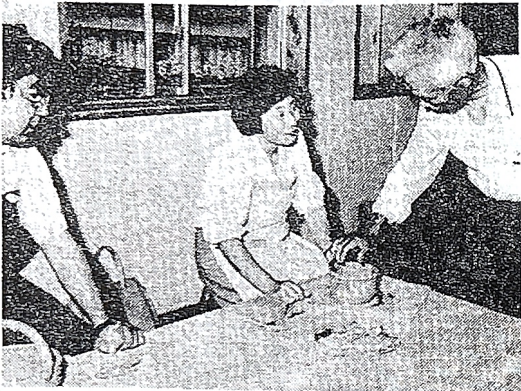


つくる楽しさ体験

カエル村が南外で 教室を毎月2回開く



百三十年の歴史を持つ仙北郡南外村の陶芸教室で、毎月一回、陶芸教室が開かれている。「いま、自然にカエルと暮らす」をキャッチフレーズにユニークな活動を行っている西仙北町のミニ独立国「秋田カエル村」の佐々木正光代表が主催しているもので、参加者たちは四代目蔵元の小松幸一邸まで、モカアラドバイスを受けながら思い思いの焼き物をつくっている。

陶芸は、文久年間以降、在の秋田市市内の秋田焼の工人を招いて産地を造ったのが始まりといわれる。水がめ、つぼすり鉢など、実生活に密着した日用雑器として重宝がられてきた。実用性と素朴さで、全国の陶芸ファンにも根強い人気がある。四代目・幸一郎さんは五十年に日本民芸展最優秀賞を受け、その後毎日本陶芸展、伝統工芸展などに入選、五十八年には県文化功労賞も受賞した。

この小松さんと、五代目・哲郎さん（もも）の協力を得てカエル村が陶芸教室を開く。

小松幸一邸さんのアドバースを受けながら焼き物づくりを楽しむ参加者

陶芸に挑戦しよう

いたのは、先日二十一日から、「粘土をねる」をテーマにした「自然にかきり」の目的、これまでの参加者も、焼き物づくりは全く初めての人ばかりと云って、だが、熱心に焼く粘土をこねていた」と主催者代表の佐々木さん。

ロクろは初心者には無理なので、茶碗状のものばかりのようには焼けた粘土を盛っていく、均整のと

れたものは難しいが、願望、好きな人ばかりのせいも、みんなスジがいい」と小松さん。参加者がつくった作品は、窯で乾燥させた後、うわすずりを塗って焼いてもらう。粘土をねてから約一カ月後、焼き上がった作品が手元届けられる。

この陶芸教室は、毎月一回、原則として第一、第三、土曜日、今日は十二日と、定めの午後二時から三時開く。参加料は材料の粘土一斗を含め一人一回二千円で、カエル村産手づくりの土器が土産につく。参加申し込みは、はがきか電話でカエル村事務局（西仙北町南外野三三、019-75-2626）へ。

昭和61年(1986年)7月10日(木曜日)

青森 宮城 秋田 山形 岩手 青森 宮城 秋田 山形 岩手 (第三種郵便物認可)



参加を呼びかけるホスター

作ってみよう 石のピラミッド

来月10日 ジャリンコ世界大会

秋田カエル村は、アフリカ大陸で行ったストーンピラミッド難民救援の礎の一粒遺物。又第二弾で八月十日、同町別荘の南仙北町野の佐々木正光さん邸までその仲間たちが、新しい石の手で積み上げるの地盤として、三年前、同町大沢地区の山林内に、開けられた。

今回のイベントは、さき三

秋田カエル村新イベント **高さ、重さを競う**

「今、自然にカエルと暮らす」を合言葉に、ユニークな活動づくりを進めているミニ独立国「秋田カエル村(西仙北町)」で、「ジャリンコピラミッド世界大会」と題した新イベントを開催、大会参加者を募集している。

雄物川の河原で、優勝10万円

月に行ったストーンピラミッド大会に続くピラミッド大会。又第二弾で八月十日、同町別荘の南仙北町野の佐々木正光さん邸までその仲間たちが、新しい石の手で積み上げるの地盤として、三年前、同町大沢地区の山林内に、開けられた。

そのほか特選品三斗分、たぐわぬ焼く一年分などの贈品がある。

ストーンピラミッド大会の会場は、本物の外人さんの参加はなかったものの、全国各地の独立国からの「外人」たちが加わって、「世界一」を競い、大に盛り上がった。

U.S.O.の放送
ロクろ放送
電手リンチ
イタワリ精神を忘れない
一筆手園楽
(大澤・てん)

問い合わせは、西仙北町別荘、佐々木邸内・秋田カエル村事務局(019-75-2626)へ。